

2012年度 事業報告書

2012年4月1日～2013年3月31日

社会福祉法人紅葉会

I. 法人本部

1. 理事会開催実績

開催年月日	出席理事数	出席監事数	審議決定した事項
2012.04.27	8	3	役員改選／職員の海外研修／監事監査と決算理事会
2012.05.24	7	3	2011年度の事業報告と決算／ちどり保育園の保育室扉改修工事
2012.05.25	10	0	理事長選任
2012.07.28	10	0	退任役員への記念品
2012.12.10	9	0	2012年度上期の事業報告と予算進捗／2013年度の玄海風の子保育園の体制／施設整備・修繕／補正予算／今後の法人の運営体制
2013.01.31	8	2	学童保育用地の取得と補正予算
2013.03.09	8	2	補正予算／2013年度事業計画／2013年度予算／2013年度職員給与／学童保育の土地・建物取得と今後の運営／福岡市の保育所用地有償化／春闘要求への回答
2013.03.28	9	2	役員報酬規程の改訂／春闘要求への回答と保育士等処遇改善臨時特例事業／就業規則の全面見直し／評議員の改選／ちどり保育園苦情解決第三者委員の任命

2. 評議員会開催実績

開催年月日	出席評議員数	出席監事数	審議事項
2012.05.24	15	1	保育をとりまく情勢／2011年度の事業報告と決算／役員改選／
2013.03.09	16	2	保育をとりまく情勢／学童保育の施設取得／2012年度の補正予算／2013年度の事業計画／2013年度当初予算／理事の選任

3. 監事監査実績

(1) 監査実施日他

区 分	内 容
監査実施日	2013年5月22日(水)
出席監事名	岡慎和・安部早知子・木下淑文
立会職員名	小寺安・井上邦子・奥村美香・原田秀一

(2) 監査報告書の内容

区 分	監 査 結 果
法人の財産状況	財務諸表は社会福祉法人紅葉会の2013年3月31日現在の財務状態を適正に表示している。 2012年度の事業活動について適正に表示している。

(3) 指導監査の結果

《ちどり保育園／福岡市》

実地監査なし

《玄海風の子》

指 導 内 容	実 施 内 容
【施設運営】 1. 早朝保育の時間帯と夕方の延長保育の時間帯において、保育士1名配置となっている日がある。保育する児童が1名以上いる場合は、保育士を2鍋倉以上配置すること。	■対応済み
【児童処遇】 1. 事故報告書に再発防止策や今後の対応等を記入すること 2. 保育所保育指針に基づき、保育所の自己評価の公表につとめること	■対応済み ■ホームページに掲載する
【会計】 1. 大島へき地保育所の社会保険料の立替金は、年度内に清算すること	■今後発生した場合は指導に従って処理を行う
【法人】 1. 県内交通費の支給に関する規則第4条の対象に「評議員会」と「評議員」を加え、実態にあわせること	■改訂済み

II.2012年度事業の概括

1. 決算の概括

(1) 法人

- 1) 収入の柱である運営費収入が前年を16,386,842円上回ったのに加え、経常経費補助金収入と利用料収入も前年を上回ったことにより、法人全体の事業活動収入は、前年を18,977,082円上回る356,484,658円となった。
- 2) 事業活動支出は336,486,726円で、前年を10,516,084円上回った。事務費が前年を1,274,148円下回ったものの、人件費の増額が支出を押し上げるかたちとなった。
- 3) その結果、事業活動収支差額は19,997,932円で、前年より8,460,998円の増額となった。
- 4) 事業外活動収支差額を加えた経常収支差額は19,679,744円で、前年より8,236,791円の増額となった。
- 5) 特別収支差額を加えた当期活動収支差額は19,679,741円で、前年より8,109,236円の増額となった。これに前期繰越活動収支差額を加えた当期末繰越活動収支差額は、

33,353,741円増の143,344,733円となった。

- 6) 剰余処分(積立金取崩、積立)を行ったあとの次期繰越活動収支差額は139,344,738円で、前年より15,679,741円の増額となった。
- 7) 自己資本の意味をもつ純資産は10,850,202円増の443,265,682円となった。その結果、資本の安定度を示す自己資本比率は、前年より1.4%上げて86.7%となった。
- 8) 支払資金の有高をしめす当期期末支払資金残高は、1,327,217円減額の73,447,667円となった。支払資金の余裕度を示す流動比率は514%であることから、経営の安全性は担保されているものと判断できる。

(2) 施設

- 1) ちどり保育園は、運営費収入が7,987,680円の減額となった。0歳児が前年より6名少ないスタートとなったこと、保育士の確保がむずかしく、希望する0歳児の入所がずれ込んだことが原因である。近隣に新設保育園が開園したことも影響した。その結果、事業活動収入は7,778,548円減額の186,490,231円となった。事業活動支出が前年より2,049,718円増額となったため、事業活動収支差額は前年より9,828,266円減額の3,794,474円となった。
学童保育よりどりちどり館の土地・建物取得にあたり、ちどり保育園の施設会計から繰り入れを行った。本部運営費への繰り入れ分を含めると、総額で13,461,035円が経理区分間繰入金支出となった。
- 2) 風の子保育園は、クラス構成の適正化、臨時職員雇用の方針化など、財務構造改善にむけた施策が奏功し、年齢別に安定した児童を確保することができた。その結果、運営費収入が前年より12,036,320円の増額となった。事業活動支出が3,090,636円の増額にとどまったため、事業活動収支差額は9,671,018円を確保した。本部会計への繰入等を差し引いた経常収支差額は7,540,896円となり、前年からの大幅な改善となった。
- 3) よりどりちどり館は、1年生の確保ができたことにより、事業活動収支差額は前年より767,979円多い929,481円を確保した。よりどりちどり館の収支構造は安定しているが、専任の正規職員を配置する財政規模にはない。補助金の確保等、今後の方針化が急がれる。他の経理区分からの繰り入れと借り入れにより、念願の土地・建物を取得することができた。今後は新施設での保育内容を保障する職員体制の確立が求められる。
- 4) 大島へき地保育所は、2歳児の確保により事業活動収入が12,338,202円の増額となった。事業活動収支差額は7,535,176円増額の8,578,863円を確保した。指定管理受託後3年が経過したことから、本部運営費用負担分として6,000,000円を本部会計に繰り入れた。次期繰越活動収支差額は、2,581,500円増額し、11,880,192円となった。

2.課題

- (1) 保護者や多くの保育関係者の思いをふみにじり、保育制度へ市場原理を導入する「子ども・子育て支援法」が関連法とともに国会に上程された。国民の運動により削除された児童福祉法第24条1項が修正復活し、多くの付帯決議とともに関連三法は可決・成立した。市町村の保育実施義務が明記されたが、保育所も支援法の枠組みに規定されており、子どもの保育をうける権利は限定的となった。保育所の施設整備費も補助対象からはずされた。子どもの保育を受ける権利を守り、保育事業を健全に発展させるために、法案の廃止をめざした運動がなにより重要である。同時に、「子ども・子育て会議」への提言も行う必要がある。
- (2) 新法施行の2015年までに事業活動支出(減価償却費を除く)の3カ月分の資金を用意することも経営としての責任である。2012年度決算で、資金準備高は2.8カ月分までになっているが、施設間でばらつきがあり、この課題は継続されているとの認識が必要である。

- (3) 人件費は上昇を続けているが、ペースアップは実施されず、賃金水準が引き上げられたわけではない。2013年度は保育士等処遇改善のための交付金により、正規・臨時ともに年収が引き上げられるが、恒常財源でないため、賃金水準の引き上げにつながらない。恒常的な財源を国に求める必要がある。職員の賃金水準は、なお改善が必要な状況が続いている。処遇改善の財源確保のために、保育園経営者間の立場の違いを超えた情報交換・連携、職員・保護者・地域との提携が決定的に重要になっている。
- (4) 紅葉会が複数施設を運営するようになって10年が経過した。“本部機能の確立と強化”、“財政の健全化”、“保育観の一致”といった課題は、一定の成果を確認することができる。経営管理体制の蓄積は着実に前進している。そのことは、学童保育の用地・建物の取得においても確認された。一方、事務システムの統一によるコスト削減、教育体系にもとづく職員教育・専門性の蓄積など、課題も少なくない。これらの課題を確実に達成させるためには、役職員の方針への結集と協働が不可欠となる。それを保障するために、方針の明確化と組織と運営の民主制を徹底する。

Ⅲ.ちどり保育園

1. 入所児童の延べ人数

年齢別	2012年度	2011年年度	増減
乳児	223	280	-57
1・2歳児	846	822	24
3歳児	460	438	22
4歳児以上	853	928	-75
合計	2382	2464	-82

前年度末に引越等の退園もあり、年度初めは192名のスタートだったが、年度途中で0歳児、4歳児が増え年度末は204名となった。

2. 職員の配置実績

(1) 正規職員

職種	当初配値	増減	年度末
園長	1		1
主任保育士	1		1
保育士	18	-2	16
調理員	2		2
事務	2		2
合計	24	-2	22

正規職員の確保が厳しく年度初めに一年正規を1名配置した。

(2) 臨時職員

① 常勤職員

職種	当初配置	増減	年度末
保育士(1年正規)	1	1	2
保育士	9	4	13
調理師	2		2
合計	12	5	17

年度途中で正規職員1名が退職した為、一年正規が2名となった。0歳児の受け入れに伴い年度途中で常勤を増員した。

② 非常勤職員

職種	当初配置	増減	年度末
保育士	4	-1	3
調理員	1		1
その他	2		2
合計	7	-1	6

保育士は、勤務形態にかかわらず確保が厳しい状況で今後の課題である。

3. 2012年度 保育の重点方針と実績

下記の重点方針のもと、学習と実践の統一をすすめ、日常の保育内容と行事内容を深めることが出来た。

(1) 日常運営

①子どもの成長、発達に責任をもつ立場から、専門性と運営力量の引き上げをはかった。

*25項目ある「職員の勤務原則」が一人ひとりの各職員の役割と責任を認識して仕事を進

- めることにつながった。「当日の園の状況・保健日誌」を伝達・意思疎通として重視した
- ②一人ひとりが自分の役割と責任を認識して仕事を進めことにつとめた。
- *主任、チームリーダーを中心に各クラスの成果と課題を整理し、日常運営や保育の専門性を高めていく協力体制作りをすすめていった。
- ③働きやすい職場環境をめざす為、心理カウンセラーと連携し「心の相談室」を設置した。

(2) 保育内容

- ①ちどり保育園保育要綱、保育目標、保育方針については、折に触れ確認し共通認識を深め高めあうようにした。
- ②職員間の信頼関係（認め合い支え合う）を基盤に、職員集団の質の向上と専門的力量をどう高めあうのか、職員間の連携については会議の議題にものせ皆で考えあう機会をもった。
- ③「発達保障」「一人ひとりを大切に作る保育」を貫くため、未満児クラスでは担当制を導入して、養護と教育の一体化により子どもの自主性の形成に努めた。また、遊ぶことを通して子どもの可能性を引き出して発達を助けられる保育をめざし大切にしてきた。
- ④保育内容の8つの柱を中心に、理論と実践を統一的に深めあった。また、クラスごとに年間の研究テーマを決め継続した学習は実践にもつながり、一定の成果も得られ次への課題につながった。
- ④保育計画(教材準備)——年間計画・期計画・月案・週案(課業)——の目的を明確にするための検討・話し合いを深めた。またビデオ観察から保育を振り返る中では分析する力もついてきている。
- ⑤保育方針、および保育内容の総合的な充実をはかるために、研修・学習を強めた。チームでの自主学習会や自分に必要な専門分野の自己研修など活発になってきている。
- ⑥姉妹園である玄海風の子保育園・大島保育所との施設間交流をし、保育の学び合いをすすめた。(年長児合宿、リズム運動交流・保育内容検討会議)
- ⑦公的保育制度の解体につながる「子ども子育て新システム」や平和(原発問題)の学習と運動が、保育要綱を深く理解することにつながった。

(3) 地域子育て支援事業

- ①地域で生きいきと育ちあう場をめざしての、学童保育「よりどりちどり館」は、希望者も多くいが保育室も手狭になった為、よりよい保育環境づくりに向けて施設の移転が決まった。
- ②地域子育て支援としては毎月の「なかよレクラブ」「赤ちゃんクラブ」を実施。育児相談等の要求も多くなっている。その他「卒園児・小・中・高校生との交流」、「在園児保護者との連携と家庭支援」等、地域の実態や子育ての要求を把握し今後の支援につなげていく必要がある。

4. 通常保育の年間行事実施実績

月	主 な 行 事
4	入園式・歓迎遠足・園説明会・下クラス懇談会・上クラス児懇談会
5	第1回父親交流会・くじら組春合宿・歯科検診①
6	下クラス公開保育・ぎょう虫検査・ほし組(延長保育)懇談会・園児検診①
7	上クラス公開保育・平和夏まつり・
8	七夕と語り部・ファイヤースクール
9	上クラス懇談会・下クラス懇談会・リズム運動参観日・敬老のつどい・尿検査園外保育
10	第2回父親懇談会・運動会・ぎょう虫検査
11	くじら組秋合宿・歯科検診・園外保育・交通安全教室・くじら組野鳥観察

12	下クラス公開保育と懇談会・クリスマスコンサート・園児検診②・劇団観劇・もちつき
1	どんどやき・第3回父親懇談会
2	節分・上クラス公開保育・子育てを伝える会・歯磨き指導・園外保育
3	お別れ会・お別れ遠足・卒園式・進級式

施設間交流として年長児の合宿では、春は風の子保育園で宿泊し大島であそび、秋には風の保育園の年長児をちどり保育園に迎え活動交流する事ができた。

5. 特別保育事業の実績

(1) 延長保育事業

延長保育	2時間		
登録利用者数 (月単位)	1時間延長	年間延 1498名	1月平均 29名
	2時間延長	年間延 235名	1月平均 5名

2時間延長の利用者が減っている傾向にある。

一時保育事業

利用者数(日単位)	4時間超	年間延 2名
	4時間以内	年間延 6名

一時保育の希望はあり、問い合わせも多いが職員確保の問題もあり日常保育の受け入れは厳しい状況である。実績としては、次年度入園時の慣らし保育として年度末の数日の受け入れのみである。

(3) 障害児保育事業

入所者数	軽度	0名	年間延	0名	1月平均	0名
	中度	0名	年間延	0名	1月平均	0名
	中度より重い	0名	年間延	0名	1月平均	0名

認定を受けてはいないが、個別に配慮の必要な児童は多い。

(4) 保育所地域活動事業

下記の事業を実施した。

① 世代間交流等事業

地域の高齢者との交流「ふれあいサロン」・「小中学生との交流」・「OB父母同窓会」を実施。

② 育児講座・育児と仕事両立支援

公開保育や懇談会での学習会・講師を迎えての講演会を実施。

6. 施設および設備の整備実績

区分	整備の内容	経費
施設整備 12/14	小ホールガラス交換工事	397,184円
7/2	保育室出入口扉建具工事	1153,500円
7/10	プール排水管工事	273,000円
7/10	プール架台テント工事	336,000円

小ホールは延長保育でも利用するが、吹き抜けで空調が効かないため断熱効果のあるガラスに交換した。・昨年度に建設したプール架台にプールを設置し、夏の水遊びがたっぷりと保障できた。しかし、排水管の修理、日よけテント設置等、追加の工事があった。

7. 職員の研修実績

区分	実施年月等	研修会名等	研修の内容	参加
施設内 研修	6回	保育研究会(遊び・育児)	講師：中島侑子氏	66
	14回	保育実践検討会	テーマにそって実践検討	60

施設外 研修	3回	新人研修	就業規則・保育要綱他	17
	35回	福岡市保育協会主催研修	保育内容	36
	4回	全国経営懇セミナー	経営研究・主任研修	6
	5回	他園保育参観と研修		5
	5/13	よりよい保育緊急集会・学習		2
	6/1	防災指導者研修		1
	6/8～10	全国保間研広島集会		3
	6/16・17	わらべ歌・保育セミナー	保育内容	11
	7/7	博多絵本講座(佐々木正美氏)		1
	8/18～20	全国合研神戸集会	保育内容と情勢	2
	8/25～26	保間研夏季セミナー		1
	9/8・9	九州保育団体研究大会(宮崎)		24
	11/7～9	保育所障がい児保育担当者 研修会(東京)		1
	11/14	保育情勢学習会(東京)		3
	11/17	九州私立保育園研究大会		1
12/9	保育の集い		15	
2/16	福岡県職員総合研修大会		1	

園からの指定研修だけでなく、自己研修としても積極的に参加できてきている。臨時職員の研修の機会をどう保障していくかが、今後の課題である。

8. 苦情等解決機関の設置と実績

(1) 苦情等解決機関の設置

職務	職名	氏名	連絡先
苦情解決責任者	園長	井上邦子	092-621-6331(ちどり保育園)
苦情受付担当者	主任	智原順子	092-621-6331(ちどり保育園)
第三者委員	卒園児保護者	井上准子	090-8390-9955
	紅葉会 監事	木下淑文	090-1369-9535

(2) 2012年度の苦情等の実績

機関での審議対象なし

- ①子どもの事故、ケガの発生についてリスクマネジメントの観点からも状況の把握と対策を強化した。事故報告のデータ化やヒヤリハットの記録から職員間で問題を共有し共通の認識とする事ができた。
- ②サポートが必要な家庭(保護者のメンタルケア)については児童相談所、区役所等、連携をとっていった。

9. 2012年事業に係る特記事項

- ①一人ひとりが自分の役割と責任を認識して仕事を進め、職員集団としても、どう認め支え合う関係をつくっていくのかを、引き続き追求していく。
- ②保育士の確保が厳しい状況だった為、欠員のカバーを職員の協力でのりきる部分があった。まずは、人的にも安心して働ける環境の確保は必須だと感じる。今後の課題でもある。
- ③姉妹園としての施設間交流が少しずつ取り組めた。年長児の合宿やリズム運動交流は、子ども同士の交流だけでなく職員としても、お互いに子どもの姿から保育を振り返るいい機会となった。三園での保育内容検討会議も活かしながら今後につなげていきたい。

IV.玄海風の子保育園

1. 入所児童

年齢別	12年当初	実入所数	増減
乳児	178	178	0
1・2歳児	527	530	3
3歳児	294	294	0
4歳児以上	658	661	3
合計	1657	1663	6

当初の計画に対して6名増となった。基本的には乳児を中心に入園の受け入れを行うことで運営の安定につながった。2013年度も乳児を中心として受け入れをめざしていきたい。

2. 職員の配置

(1) 正規職員

職種	12年当初	年度末	増減
園長	1	1	0
主任保育士	1	1	0
保育士	7	7	0
調理員	2	2	0
事務長	0	0	0
合計	11	11	0

(2) 臨時職員

1) 常勤職員

職種	12年当初	年度末	増減
保育士(1年正規)	3	3	0
保育士	4	5	1
調理師	0	0	0
事務	0	0	0
合計	7	8	1

育休代替職員も含め1年正規雇用の職員が3名となる。

乳児クラスの子どもの受け入れに伴い、クラス配置の常勤職員が5名となった。

2) 非常勤職員

職種	12年当初	年度末	増減
保育士	9	10	1
調理員	3	2	-1
その他	7	8	1
合計	19	20	1

入所加算事業での60歳以上の職員にきてもらうことで(2名)保育教材づくり、子育て支援の

サポートなどを行うことができた。

3. 保育の重点方針と実績

下記の重点方針のもと昨年度に引き続き、運営の組織化と日常保育の観察を通して(事実をみる)分析を行い、保育士の育児とあそびにおける指導性について学びあっていった。

(1) 日常運営

- ①保育要綱、保育目標、保育方針について確かめあうことで法人職員としての意識づくりや園の保育の方向性が明確になってきた。
- ②保育方針をふまえて、一人ひとりが自分の役割と責任を認識して仕事を進めていくことを重視していった。また、お互いの意志疎通をはかり、伝達しあうことを基本に、ひとりひとりが連携を意識して保育していくことをこれからも大切にしていきたい。
- ③保育の書類の整理や年休・雇用契約等についても意味や内容を確認しあってきたことで園の管理・自己管理が明確になった。

(2) 保育内容

自然に恵まれた保育環境を生かし、子どもを真ん中にして育ちあうために、紅葉会の保育要綱・保育方針を再確認し、子どもの家庭環境や宗像の地域性を十分に考慮して日常の保育をつくることを大切にしてきた

- ①大人との信頼関係を通して生活の自立へ
子どもの人格を尊重し、自己肯定感を育みながら、子どもの成長発達を助ける保育のあり方を引き続き研究してきた。日々の保育の中で、保育者は育児と遊びの中に教育的視点を持ち、信頼感・安心感を土台にしてその子の発達に沿った生活の自立を助ける保育を深めていった。
- ②保育理論と実践を統一的に深めあう
年間の保育研究テーマとして流れる日課と担当制を土台に「乳児の遊び・幼児の遊び」をおき、遊びの重要性を確認しあった上で、保育観察・分析を通して大人がどう助けるかを深めていった。また、2012年度は遊びの充実につながる環境づくり（幼児クラスの大形積み木の購入）を行なうことができた。
- ③「発達保障」「一人ひとりを大切にする保育」を貫くため、専門機関と連携して、障害児保育を行ってきたが、軽度の配慮を必要とする子どもたちが多くなってきている。巡回相談2回と就学前の5歳児クラスの配慮の必要な子どもたちは小学校からも見に来てもらう機会を設け連携が増えてきた。
- ④保育方針、および保育内容の総合的な充実をはかるために、園内研修・会議の在り方も検討しながら内容の充実をめざしていった。

(3) 地域・他団体との連携

- ①保育情勢に関する動きは日常的にも職員・保護者にも伝える機会を意識的にもつことで、情勢に対する理解は深まったが、まだ運動の広がりまでには到っていない現状がある。宗像地区の保育協会や園長会としても学習や市長との懇談も実施した。（保育士処遇改善など含む）

4. 通常保育の年間行事実績(玄海風の子)

- ①日常の保育の積み上げとしての行事、子どもの成長の節目として位置づけてきた。また年間の保育研究テーマや成果を確かめあう場としても位置づけ、日々の保育を観察・分析して今後に生かしていく。

月	主な行事
4	入園を祝う会・園内交流・園説明会 新クラス懇談会
5	かぼちゃ組春合宿・園庭整備
6	0・1・2歳公開保育・懇談会・ぎょう虫検査・園児内科・歯科検診①
7	3・4・5歳公開保育・懇談会・地引網・4・5歳児川・海あそび
8	平和のつどい
9	敬老のつどい・合同学習会（保護者会・園）・園外保育

10	運動会
11	かぼちゃ組秋合宿・風の子まつり・園児内科検診・歯科検診②
12	0・1・2歳公開保育・懇談会・かぼちゃ組和白干潟・もちつき
1	どんどやき
2	節分・3・4・5歳クラス公開保育
3	お別れ会・進級遠足・卒園を祝う会

5. 特別保育事業実績

(1) 延長保育事業

- ①就労支援事業の一環として実施
- ②夕方保育として少人数での子どもたちの生活を大切に「縦わりでの保育」として実施してきた。
- ③0・1・2歳児の低月齢での利用が増加した。

	区分	年間延人数	月平均人数
登録利用者数 (月単位)	1時間延長	195名	16名
	2時間延長	40名	3名

(2) 一時保育事業

- ①地域のさまざまな保育ニーズに応じていく目的で受け入れに努力をはかってきた。
- ②実際の利用は育児休業中の在園していた子どもたちの利用が多くなった。

	区分	年間延人数	月平均人数
利用者数 (日単位)	4時間超	155名	14名
	4時間以内	69名	5名

(3) 障がい児保育事業

- ①発達支援センターとのケース巡回(年2回)はこれまで通りだが、配慮のいる子どもたちと発達支援センターとのつながりを意識的につくっていくために2012年度よりモデル園として年中検診を行い、2013年度からは宗像市で全園実施となる見通しである。
- ②年長児は就学前相談と就学予定の小学校(5~6校)から対象児を見学に来てもらい、園での様子や園での具体的な手立てを伝えていった。

(4) 保育所地域活動事業

下記の事業を実施した

- ①世代間交流等事業
ジージ・バーバ会は定例的な地域活動、在園児との交流(がめの葉餅づくり・ソーメン流し・かき氷・おはぎづくり・干し柿づくりなど)、畑の苗植え、園の教材づくりでの支援が定着している。園としては会員が固定化しているため、在園児の祖父母も含め広げ充実させていきたい。
- ②育児講座(ぼかぼかクラブ・赤ちゃんクラブ)
園庭解放や育児講座(食事や悩みを語り合うしゃべり場・ヨガ講座)などを通してお母さん同士のつながりも深まった。また、園の環境や保育内容を知ることによって入園にもつながっている。
- ③異年齢児交流事業
宗像市は小中一貫教育の取りくみもあり、行政としても保幼小の連携の強化をしているが、園としても主体的に取りくんでいく必要がある。
- ④地域の特性に応じた保育需要への対応
ここ数年で地域の0歳児の入園希望者が増えているが、在園児の兄弟児も多く、保育士の常勤職員が不足し対応できていないのが現状である。一時保育も「来週利用したい」

との急遽の希望連絡なども多いことと、体制の問題もあり受け入れが実績として少なかった。

6. 施設および設備の整備

- ①監査で指導を受けていた給食室の二重扉・カウンターの改修工事を行ったことで、給食室内での配膳スペースの拡充にもなり業務改善につながった。
- ②井戸水は以前よりマンガンが多く、維持管理に年間30万程の経費がかかっていたのもあり、水道水への切りかえを行った。

区分	整備の内容	経費
施設整備	給食室改修工事	1,522,500円
	給水管改修工事 (井戸水→水道水への切り替え)	483,000円
事務設備	パソコン2台(事務・保育)	188,722円

7. 職員の研修

区分	実施年月等	研修会名等	研修の内容	参加数
施設内研修	16回	保育研究会 (遊び・育児)	講師：中島侑子氏 ：吉田田鶴美氏 柏原トクヨ氏	60
	12回	保育実践検討会	テーマにそって実践検討	240
	3回	新人研修	就業規則・保育要綱他	6
施設外研修	36回	宗像市保育協会主催研修	保育内容	50
	3回	全国経営懇セミナー	経営研究・主任研修	3
	8月18～20	全国保間研広島集会	保育内容・保育情勢	2
	6/8～10	わらべ歌・保育セミナー	保育内容	
	8/18～20	全国合研神戸集会	保育内容と情勢	1
	12回	コダーイ乳児部会 A/B		48
	12回	コダーイ幼児部会		12
	11月	保育の集い		10
	他園保育参観と研修		10	

宗像保育協会研修・宗像市主催の研修では、夕方の時間で「保幼小の連携」「発達支援」にテーマをおいて研修が実施された。(全職員対象の研修)

園内研修では、乳児のあそび・幼児のあそびに重点をおきながら遊びの重要性を再確認し、環境や私たち大人が遊びの中で果たす役割や指導の在り方についても外部講師による保育実践観察や分析を通して実践を深めることができた。

8. 苦情等の解決

苦情処理委員会は年3回実施し、園の運営状況や保育内容・安全面(大型遊具・大人の見届けのあり方)保護者との連携も含め報告を行ってきた。

保護者からの要望については保育内容で年長児の保護者より劇を行ってほしいとの意見がでた。

子どもの自主性を考え、日常の乳幼児期のあそびの大切さを伝えながら理解を求めていった。

(1) 苦情等解決機関の設置

職 務	職 名	氏 名	連 絡 先
苦情解決責任者	園長	松尾津多子	0940-62-9088 (玄海風の子保育園)
苦情受付担当者	副園長(主任)	奥村美香	0940-62-9088 (玄海風の子保育園)
第三者委員	岬コミュニティ副	桑野通孝	0940-62-1716
	紅葉会 監事	安部早知子	090-8763-4418

(2) 方針

機関での審議対象なし

9. 2012年事業に係る特記事項

- ①新体制移行に向けて紅葉会職員としての役割と責任を明確にし、職場の民主的な雰囲気大切にしていくなかで、リーダーを中心にひとりひとりの意識づくりにつながってきた。
- ②玄海地域の子育てひろばとして、子どもの成長を真ん中にすえ、共に育ち合う保育園づくりをめざしてきた。園内では保護者会・ジージバーバ会にも保育で大切にしていることを伝えながら理解を深めるように意識してきた。風の里夢委員会・障害児親の会との連携や情報交換も行っていった。
- ③紅葉会施設であるちどり保育園年長との春・秋合宿やリズム交流、大島保育所との海あそび・合宿交流を通して同年齢での子どもたち同士でお互いを見合う姿や憧れと活動への意欲につながったと感じる。2013年度以降は子どもたちの引き続きの交流と保育・給食の施設間交流を実施していきたい。

V. 学童保育よりどりちどり館

1. 入所児童の延べ人数

3、6年生で4名の途中入所、1、2、3、6年生で8名の途中退所があった。

学年別	当初計画	実入所数	増減
1年	180	172	-8
2年	84	73	-11
3年	60	66	+6
4年	48	48	0
5年	84	84	0
6年	84	67	-17
合計	540	510	-30

2. 職員の配置実績

(1) 職員

4月～9月は補助指導員を1名、10月からは資格保持者を指導員として配置した。

職種	当初配置	増減	年度末
指導員	1	0	1
指導員(常勤臨時)	0	1	1
補助指導員(臨時)	1	-1	0
合計	2	0	2

3. 2012年度 保育の重点方針と実績

下記の重点方針のもと、学習と実践の統一をすすめ、多彩で豊かな保育内容をつくりあげることができた。

(1) 日常運営

- ① 職員一人ひとりが自分の役割と責任を認識して仕事をすすめた。
- ② 指導員会議での学習や、研修に参加することにより、子どもの成長・発達に責任をもつ立場から、専門性と運営力量のひき上げをはかった。
- ③ ちどり保育園年長児と交流しながら保育内容の充実をはかった。

(2) 保育内容

- ① おやつ時間で話を聞いたり、くつろげる空間を作ることで、学童保育を落ち着いて生活できる場にした。
- ② 指導員との関係作りや遊びの充実により安心して楽しく過ごせる放課後づくりをすすめた。
- ③ 延長保育の子どもたちの家庭での生活時間を考慮しながら、学習の時間を設けた。
- ④ 伝承遊びや集団遊びで異年齢集団で関わり合う中で、励まし合い育ちあう仲間集団を築いた。

4. 通常保育の年間行事実施実績

長期休みを中心に下記の行事を行った。

月	主 な 行 事	
4	1年生歓迎会・説明会	誕生会 わらべうた (毎月実施)
5		
6	懇談会	
7	夏まつり(太鼓出演)	

8	川遊び(猪野川)・クッキング・プール 外出(少年科学文化会館・糟屋ドームプール) 松島小学校校区夏祭り(太鼓出演)	
9		
10	懇談会	
11	風の子祭りバザー出店・個人懇談(1月まで)	
12	こばと学童との交流(こま) 太宰府こま大会・入所説明会・クリスマス会・スケート ちどり保育園年長児との交流(お化け屋敷)	
1		
2	節分・懇談会	
3	お別れ遠足・卒所式	

5. 施設および設備の整備実績

入所希望の児童が増え、施設も手狭になっていることから、近隣に新しく土地、建物を修得した。

6. 職員の研修実績

下記の研修に参加し、保育内容と情勢の学習を行った。

区分	実施年月等	研修会名等	研修の内容	参加数
施設外研修	9/8, 9	九州保育団体合同研究集会	保育内容と情勢	1
	9/30	全国学童保育指導員学校 九州会場	保育内容と情勢	1
	10/6, 7	全国学童保育研究集会	保育内容と情勢	1
	2/24	福岡県学童保育研究集会	保育内容と情勢	3
	年2回	学童交流会	保育内容研修	1

7. 2012年事業に係る特記事項

- ①指導員会議を週1回定期的に行い、指導員同士の連携を図り保育を充実させた。
- ②こばと学童と太宰府こま大会へ向けて一緒にこま遊びの交流を図った。
- ③ちどり保育園年長児(お化け屋敷、風の子祭りリハーサル・伝承遊び)と交流する機会を数回設け、関わりを充実させた。

VI. 公益事業／大島へき地保育所

2012年度は、当初から関わってきた正規保育士1名の「6月で退職」という状況にあたり、現況のままの保育体制を維持しながら、これまでの3年間の保育への理解、保護者・地域とともに、一人ひとりの発達と子育て共育を軸とした保育内容をしっかりとおさえあうことを方針に保育内容の充実にあたった。

1. 入所児童

2歳児15名の入所に伴い、「慣らし保育」での丁寧な受け入れと、生活を柱とした縦割クラス編成を継続して実施した。

年齢別	当初計画	実入所数	増減
2歳児	15	15	0
3歳児	2	2	0
4歳児	8	8	0
5歳児	4	4	0
合計	29	29	0

2. 職員の配置

2歳児15名の受け入れの為、常勤有資格者（臨時）職員を配置し、保育の充実にねらいに4月をスタートしたが、正規職員が1名6月に退職した為、上記の職員を6月より正規並一年雇用の保育士とし、臨時保育補佐1名を常勤雇用として、体制維持と保育内容の充実にあたった。

職種	当初配置	増減	年度末
園長	1	0	1
主任保育士	1	0	1
正規職員	3	-1	2
臨時保育士	1	-1	0
正規並1年雇用（臨時）	0	1	1
代替保育士（臨時）	2	0	2
臨時保育補佐（臨時）短時間	1	-1	0
臨時保育補佐（臨時）常勤	0	1	1
合計	9	-1	8

3. 保育の重点方針

指定管理者制度導入より運営は3年目。2歳児15名の入所が保育の要となった。「慣らし保育」を丁寧に実施した。

(1) 日常運営

- ① 子どもの成長、発達に責任をもつ立場から、専門性と運営力量の引き上げをはかった。
- ② 一人ひとりが自分の役割と責任を認識して仕事を進めた。
- ③ 組織の一員として伝達しあい、意思疎通をはかって連携した。
- ④ それぞれの役割と責任を明確にし、運営体制を確立した。
- ⑤ 市との連携を密にはかり、保育内容および施設管理の安全性に留意した。

(2) 保育内容

- ① 2歳児15名の入所。もう一度原点に戻り、子どもたちひとりひとりが安心して過ごせる環境づくりと活動内容、保護者が安心して預けられる「保育所づくり」「地域との結びつき」に重点をおき丁寧、保育内容を展開していった。

②割での生活クラスを土台に「人とのつながりの中で育つ生活力」や個々の特性や個性を尊重し、その中で集団の育ちあいを大切にしていた。

③地域や保育所の歴史や文化に学び、地域・小中学校との交流や地域への日常的な関わりの場、行事、園外保育の実施を「日常保育の柱」とした。

(3) 地域子育て支援事業

地域の実態や子育ての要求を把握し、「高齢者との交流」、「卒園児・小・中・高校生との交流」、「在園児保護者との連携と家庭支援」、「地域子育て支援」を実施していった。

4. 通常保育の年間行事

月	主な行事
4	始園 入園を祝う会 親子遠足 花まつり ぎょう虫検査① 内科検診①
5	春季大祭 保育参観・クラス懇談会
6	歯科検診① 小中学校文化祭
7	クリーンアップ 七夕夏祭り 海あそび 山笠 風の子海あそび交流
8	中津宮七夕祭 1学期保護者会懇談会 盆踊り 花火大会
9	職場体験 敬老の集い お月見会
10	みあれ祭 全島運動会 秋の遠足 個人面談 ぎょう虫検査② 内科検診②
11	ぽかぽかデー 風の子祭り年長親子レクリエーション 歯科検診②
12	小学校おもちゃランド 小中学校もちつき お楽しみ会 コミュニティー合同クリスマス会 2学期保護者会懇談会
1	七草 鏡開き・どんどやき 保育参観 年長就学懇談会
2	節分 3学期保護者会懇談会 入園進級説明会
3	お別れ遠足 卒園式 進級式 終園

5. 特別保育事業

1) 延長保育事業

2012 年度実績なし

	区分	年間延人数	1月平均人数
登録利用者数	1時間延長	4名	0名

2) 一時保育事業

2012 年度実績なし

	区分	年間延人数	1月平均人数
利用者数 (日単位)	4時間超	0名	0名
	4時間以内	0名	0名

3) 障がい児保育事業

①発達支援センターとのケース巡回連携を強化することができた。

②保護者の、障がいや特性への理解をはかる（共育て・共育ち）為、発達支援センターとの連携をはかり、「のぞみ園」「センター」への通所につなげることができた。

③宗像保育所連盟研修に参加（1名 「発達障がい児研修」に参加できた）

④小学校と支援センター、園との引き継ぎの連携を強化。

	区分	年間延人数	1月平均人数
入所者数	広汎性発達障がい(4歳児)	1名	1名
	吃音	1名	1名
	自閉傾向	1名	1名

4) 保育所地域活動事業

下記の事業を実施していた

- ①世代間交流等事業（地域の高齢者玄寿会との交流、小中学校との提携）
 - ②年齢児交流事業（異年齢での生活、活動）
 - ③域の特性に応じた保育需要への対応（地域への園外活動・文化歴史体験など）
- * 育児講座・育児と仕事両立支援は 2013 年度の実施計画とする

6. 施設および設備の整備

- ①ホールと廊下の床面（コンクリートの上に薄いゴム素材貼り付けの為、床面が硬く、転倒した時やリズム運動の活動時にも、頭をうったり足首を痛めたたりと怪我の要因にもなっていた為、早急な整備へと市との協議をすすめ、7 月中旬の工事の実施へこぎつけた。
- ②老朽化に伴い、ホールのカギのはまりが緩んでいる箇所が多く、交換をして整備を行った。

区 分	整備の内容	経費
施設整備	ホール・廊下の床貼り工事	/
	ホールのカギの交換	92,400円

7. 職員の研修計画

下記、研修に参加し、報告や実践につなげていった。

区分	実施年月等	研修会名等	研修の内容	参加数
施設内研修	1 回	保育研究会 (遊び・育児)	わらべうた リズム運動 音楽教育の会の歌	4 名
	6 回	保育実践検討会	テーマにそって実践検討	4 名
	1 回	新人研修	就業規則・保育要綱他	0 名
施設外研修	2 回	保育協会主催研修	保育内容	4 名
	2 回	全国経営懇セミナー	経営研究・主任研修	1 名
	6 月	全国保間研研修会	保育内容・保育情勢	1 名
	9 月	九州合同研究集会	保育内容・保育情勢	1 名
	6 回	宗像地方保育所連盟	保育内容・保育情勢	5 名
	5 回	福岡保育問題研究会	音楽部会	1 名

8. 苦情等の解決

(1) 苦情等解決機関の設置

職 務	職 名	氏 名	連 絡 先
苦情解決責任者	園長	小寺 安	0940-72-2534 (保育所内)
苦情受付担当者	主任 (園長代行)	奥村 智美	0940-72-2534 (保育所内)
第三者委員	地域在住・有識者	村上 秀一	090-3738-2670
	地域在住・有識者	平川 かずよ	090-5725-9404

(2) 2012年度の苦情実績

機関での審議対象なし

(3) 苦情処理委員会の実施

7 月、11 月、2 月と、年 3 回定期的に、委員会を開催し、園児の様子や保護者の要望、地域の要望などを吸い上げながら、保育内容の改善、充実と「地域で育ちあう豊かな子どもたち」の育ちを考えあう機関としても機能している。

9. 2012 年事業に係る特記事項

(1) 地域の世代間交流事業は、以下の事業を行った

- ①交流事業（小中学校・風の子保育園のお泊り保育、海遊び交流・風の子祭り親子レク）
- ②地域との交流（コミュニティーとのソーメン流し・器づくり・除草作業・クリスマス会
オーナメントづくり）
- ③育児相談
- ④地域行事への参加（地域・小中学校との合同行事）
- ⑤高齢者の方との交流（玄寿会との交流）

(2) 子育て支援事業 は、以下の事業を行った

- ①現行の公的保育制度と「子ども子育て新システム」の学習と運動
- ②入園に満たない0歳児、1歳児の子育て相談